

平成30年度 東京大学医学部医学科 基礎統合講義
基礎臨床社会医学統合講義

高齢者医療および終末期医療の諸問題

8/27(月) 9:20 - 16:30

4人に1人以上が65歳以上という超高齢社会になったわが国はまもなく多死社会に突入するとされ、高齢者の終末期医療の在り方の再検討が急務となっている。本講義では臨床・行政・哲学・法学の4つの分野の視点から高齢者の終末期医療における現状と課題についてお話を頂き、また学生も参加するパネルディスカッションを行うことで、来る多死社会に適した終末期医療の在り方を考える。

《コーディネーター》

赤林 朗 (東京大学医学系研究科 公共医学専攻 医療倫理学 教授)

瀧本 禎之 (同 准教授)

中澤 栄輔 (同 講師)

《スケジュール》

- 9:20 - 10:20 『**高齢者医療と終末期医療 – 臨床現場の現状と倫理的課題**』
箕岡 真子
(東京大学大学院医学系研究科 医療倫理学分野 客員研究員)
- 10:30 - 11:30 『**行政から見た高齢者医療の現状と課題**』
吉川 裕貴
(厚生労働省保険局医療課)
- 13:30 - 14:00 『**年齢と権利**』
加藤 尚武
(ホモ・コントリビューエンス研究所長)
- 14:10 - 14:40 『**終末期医療と法**』
樋口 範雄
(武蔵野大学法学部 特任教授)
- 14:50 - 16:30 **パネルディスカッション**

会場：東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂

対象：東京大学 全学部学生・大学院生ならびに教職員

但し、内容は本講義が必修である医学部医学科学部3・4年生向けとなっております。

事前申込不要 参加費無料 途中入退場自由

お問い合わせ：utmed.tougoukougi2018@gmail.com (2018年度基礎臨床社会医学統合講義学生委員ワーキンググループ)

平成30年度 東京大学医学部医学科 基礎統合講義
基礎臨床社会医学統合講義

DNA 損傷応答

8/28(火) 9:30 - 16:30

DNA損傷が起きると、ミスが取り除かれる場合とミスがそのまま残されがんに繋がる場合がある。今回は、その複雑な世界を掘り下げてみたい。理解を深める手掛かりとして、まず高発がん性遺伝疾患であるFanconi貧血、成長遅滞をきたすナイミーヘン症候群、早老症のひとつであるウェルナー症候群と先天性の遺伝子異常による病気についてお話を頂戴する。最後に、テロメアの機能異常と細胞のがん化・老化との関係についてお話を伺う。

《コーディネーター》

宮川 清

(東京大学大学院医学系研究科 生体物理学医学専攻 放射線分子医学 教授)

《スケジュール》

- 9:30 - 10:50 『DNA修復とがん・ファンコニ貧血から広がる世界』
谷口 俊恭
(東海大学医学部基礎医学系 分子生命科学 教授)
- 11:00 - 12:20 『NBS1タンパクからDNA損傷応答を読み解く』
小松 賢志
(京都大学大学院生命科学研究科 放射線生物研究センター
特任教授)
- 13:40 - 15:00 『ゲノム研究・基礎から応用へ：
ウェルナー症候群原因遺伝子からの出立』
古市 泰宏
(元)官民合同プロジェクト・エイジーン研究所 所長)
- 15:10 - 16:30 『テロメアと老化・がん化』
石川 冬木
(京都大学大学院生命科学研究科 統合生命科学専攻
細胞周期学分野教授)

会場：東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂

対象：東京大学 全学部学生・大学院生ならびに教職員

但し、内容は本講義が必修である医学部医学科学部3・4年生向けとなっております。

事前申込不要 参加費無料 途中入退場自由

お問い合わせ：utmed.tougoukougi2018@gmail.com (2018年度基礎臨床社会医学統合講義学生委員ワーキンググループ)

平成30年度 東京大学医学部医学科 基礎統合講義 基礎臨床社会医学統合講義

医学と芸術の接点

8/29(水) 9:00-16:20

有史以来のほとんどの間、美の定義や芸術の価値についての議論は個々人の想像や妄想の域を出てこなかった。しかし、最近の医学研究により、何を美しいと感じるか、芸術をどのように我々は認知するのか、そして芸術は我々にどのような影響を与えるのかが明らかになりつつある。本講義では、先駆的な芸術の医学的研究をされている先生方からご講演いただき、両分野の学問的融合の現在を知り、今後を展望する。

《コーディネーター》

中島 淳 (東京大学医学系研究科 外科学専攻 呼吸器外科学 教授)

《スケジュール》

9:00 - 9:05

開講ご挨拶

中島 淳 (コーディネーター)

澤 和樹 (ヴァイオリニスト, 東京藝術大学 学長)

9:05 - 10:05

『脳は美をどのように感じるのか? 多様な美の正体を科学で探る』

川畑 秀明 (慶応大学文学部 心理学専攻 教授)

10:15 - 11:15

『音楽脳を視る』

田中 昌司 (上智大学理工学部 情報理工学科 教授)

11:25 - 12:25

『音楽認知の脳内機構と治療への応用: 神経心理学的アプローチ』

佐藤 正之 (三重大学大学院医学系研究科 認知症医療学講座 准教授)

13:10 - 14:10

『楽器演奏を医学的視点から考察する』

市江 雅芳 (東北大学大学院医学系研究科 音楽音響医学分野 教授)

14:20 - 15:20

『不可能立体の数理と心理』

杉原 厚吉 (明治大学先端数理科学インスティテュート 特任教授)

15:30 - 16:20

『音楽の進化と共感覚をめぐる話題』

伊藤 浩介 (新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター 助教)

会場: 東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂

対象: 東京大学 全学部学生・大学院生ならびに教職員

但し、内容は本講義が必修である医学部医学科学部3・4年生向けとなっております。

※本学外の方で聴講を希望される方には、事前の申し込みをお願いしております。氏名・所属・メールアドレスを明記の上、以下の問い合わせ先までメールをお送りください。締切を8/24(金)とさせていただきます。

事前申込不要 参加費無料 途中入退場自由

お問い合わせ: utmed.tougoukougi2018@gmail.com (2018年度基礎臨床社会医学統合講義学生委員ワーキンググループ)

平成30年度 東京大学医学部医学科 基礎統合講義
基礎臨床社会医学統合講義

マイクロバイオータ

8/30(木) 9:00-16:20

近年、腸内細菌を代表としてマイクロバイオータがヒトに及ぼす影響に大きな注目が集まっている。免疫や炎症との関連をはじめとして、がんとの関連、代謝や肥満との関係、そして精神疾患との関連までもが示唆されている。本講義では、マイクロバイオータの多様な働きと、多様な疾患にどのように結びついているのかの展望を考える。

《コーディネーター》

畠山 昌則 (東京大学医学系研究科 病因・病理学専攻 微生物学 教授)

《スケジュール》

9:00-10:10 『ヒトマイクロバイオーム研究の現状と展望
～細菌研究からヒトを理解する科学の最前線～』
服部 正平
(早稲田大学 理工学術院先進理工学研究科 教授)

10:20-11:30 『メタゲノム解析概論』
山田 拓司
(東京工業大学生命理工学院生命理工学系 准教授)

12:30-13:40 『マイクロバイオータと疾患』
竹田 潔
(大阪大学大学院医学系研究科免疫制御学 教授)

13:50-15:00 『マイクロバイオータと精神健康・精神疾患』
須藤 信行
(九州大学大学院医学研究院心身医学 教授)

15:10-16:20 『ヘリコバクター・ピロリ除菌による胃がん予防はどこまで可能か?』
浅香 正博
(北海道医療大学学長がん予防研究所所長)

会場：東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂

対象：東京大学 全学部学生・大学院生ならびに教職員

但し、内容は本講義が必修である医学部医学科学部3・4年生向けとなっております。

事前申込不要 参加費無料 途中入退場自由

お問い合わせ：utmed.tougoukougi2018@gmail.com (2018年度基礎臨床社会医学統合講義学生委員ワーキンググループ)

平成30年度 東京大学医学部医学科 基礎統合講義
基礎臨床社会医学統合講義

筋ジストロフィーから考える難治性疾患

8/31(金) 9:00 - 16:20

筋ジストロフィーは、全身の骨格筋が壊れていき次第に呼吸不全、循環不全をきたす病態で、病型によっては40年前の患者の寿命が16歳前後という悲惨な疾患であった。現時点でも根治療法は開発されておらず、依然として患者の予後やQOLに著しい影響を及ぼしている。一方、次々に応用されている非常にホットな領域である。本講義では、筋ジストロフィーという難治疾患の一例を多方面から掘り下げて学ぶことを通して、希少性・難治性疾患全般に対する理解も深めることも目指す。

《コーディネーター》

戸田 達史 (東京大学医学系研究科 内科学専攻 神経内科学 教授)

《スケジュール》

- 9:00 - 10:10 『筋ジストロフィーに関する基礎知識と福山型筋ジストロフィーの原因遺伝子発見・系統的な解明・治療を目指して』
戸田 達史 (東京大学大学院医学系研究科神経内科学 教授)
- 10:20 - 11:30 『筋ジストロフィー医療のこれまでとこれから』
松村 剛 (独立行政法人国立病院機構刀根山病院臨床研究部長)
- 12:30 - 13:40 『筋ジストロフィーの治療に関する基礎研究の最前線』
武田 伸一 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 理事)
- 13:50 - 15:00 『筋ジストロフィーは治るか?』
松田 良一 (東京理科大学理学研究科科学教育専攻 教授)
- 15:10 - 16:20 『希少疾患での医薬品開発 筋ジストロフィーを通して』
中村 治雅 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
トランスレーショナルメディカルセンター臨床研究室長)

会場：東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂

対象：東京大学 全学部学生・大学院生ならびに教職員

但し、内容は本講義が必修である医学部医学科学部3・4年生向けとなっております。

事前申込不要 参加費無料 途中入退場自由

お問い合わせ：utmed.tougoukougi2018@gmail.com (2018年度基礎臨床社会医学統合講義学生委員ワーキンググループ)